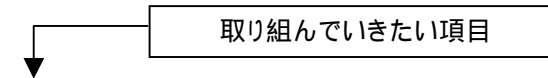


地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入職時の新人研修をはじめ、事務所内にも理念を掲示し、いつでも職員の目にとまり、初心に返れるような環境にしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時の新人研修は必ず管理者が行い、入職後もホーム長会議、ホーム会議、フロアー会議を通し、認知症の理解を伝達し、さらにホーム内研修でも、管理者または介護計画作成担当者が認知症の理解のレクチャーを行い、運営理念に沿ったケアの実践ができるよう取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎日の散歩や地域のいきいきサロン(老人会)へのお誘い、参加、さらに地域のお年寄りの将棋を大正琴のボランティア等、地域の中で溶け込んだ生活をしている。運営推進会議で自治会長さんとの交流も大切にし、地域の情報を頂いている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩で声を掛けてくださったり、声を掛けたりし、地域のボランティアの方も気軽に出入りできるよう、鍵の施錠もなく、お付き合いができるようにしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩や地域のいきいきサロン(老人会)へのお誘い、参加、さらに地域のお年寄りの将棋を大正琴のボランティア等、地域の中で溶け込んだ生活をしている。運営推進会議で自治会長さんとの交流も大切にし、地域の情報を頂いている。機会があれば積極的に参加をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>将棋や大正琴のボランティアさんを通し、地域のお年寄りの方の介護の相談を受けたり、運営推進会議でも自治会長さんをはじめ、地域包括支援センターと連携をし、介護の情報の集めたり、発信したりしている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価、外部評価の結果は運営者、管理者、職員全員に目を通してもらい再確認を行っている。家族さんには評価の結果をお渡しし、内容の説明を行い、受領書を頂いている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、入居者のご家族、自治会長、地域包括支援センター、当ホーム渉外職員、管理者で構成し、意見交換を行っている。もちろん、会議内容は議事録を取り、いつでも内容が確認できるようになっている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>当ホーム渉外職員、管理者がサービスにおける疑問点はさいたま市に連絡を取り、疑問点の解消を行っている。西区役所とは、生活保護利用者の状態を月に1回以上の割合で、報告、相談を行っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前、入居者の4名が成年後見人(うち、1名は任意後見)制度を利用されていた。以前、外部研修で行われていた成年後見人制度の研修に管理者が出席し、ホーム内研修にて全職員に認知症の方のアドボカシーのレクチャーを行った。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束、虐待はホーム内での身体拘束廃止会議にて、定期的にホーム内での身体拘束、虐待の見直しを行っている。前回の会議では精神薬の必要性の見直しを行い、精神薬の与薬のあり方をかかりつけ医、精神科医と相談している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者をはじめ、当ホーム渉外職員が契約には必ず立ち合い、時間を掛け、説明を行い、理解を頂いている。その場で十分な理解を頂けない場合は、日を改め、契約の説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>直接利用者が意見や不満を訴えた場合は管理者がその場で対応している。ご家族には不満、苦情がないかを面会に来ていただいた際にお聞きしたり、また電話やメール等の通信手段を使い、話せる機会ができるように努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、ふれあいつうしんを作成し、ホームのニュースをお伝えしている。一時預かり金は毎月〆を行い、報告している。職員の異動や新入職の職員、居室担当の変更も適宜、お知らせを行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族さんの苦情や不満は管理者まで伝達するようなシステムを構築している。(居室担当 常勤職員 副ホーム長 ホーム長 管理者(統括ホーム長)) 訴えのあったものは管理者が責任をもって解決を行い、今までの解決できなかった内容はない。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見交換ノートや管理者の面接、さらには社長面接も定期的に行っている。また、フロアー会議やホーム会議を通し、各自に発言時間を設け、発言を行っている。常勤職員には毎月、月間目標を立ててもらい、毎月管理者がコメントをし、返却している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>フロアー会議やホーム会議を通し、情報の共有を行っている。毎月、居室担当には介護サマリーを書く時間を与え、必要に応じては家族面談に管理者、ホーム長の他に、居室担当を参加させ、話し合いの場を持っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>オープン以来、1階と2階の異動を行ってはこなかったが、今年の1月より、副ホーム長の入替えを行った。極力、馴染みの関係を損なわないよう、配慮をしているが、マンネリ化を防ぐためにも、今後は慎重にバランスを計りながら行いたい。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に出た職員は、研修の持ち帰り、伝達を行うようホーム内研修の場を設けている。さらに、資格所得や学位の取得に協力的に勤務を組んでいる。私自身も現在、大学院に通っていたり、他に大学に通っている職員もいる。介護福祉士や介護支援専門員の研修、試験前にはできる限り、休暇を与えている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県認知症高齢者グループホーム協議会に所属しており、月に2回の交流の機会を設けている。12月には協議会主催の太鼓のコンサートに参加し、他のグループホームとの交流の場を設けた。ふれあい多居夢間では月に1度、会議の場を持ち、お互いのホームの状況を確認している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間の徹底、または喫煙場所の確保、休憩スペースの確保、定時退社できるような業務の見直し(毎月会議にて確認)を行い、職員がストレスにならないように配慮している。非常勤職員の希望休暇は99%受け入れ、常勤職員も勤務調整が許す限り、希望を認めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	居室担当をはじめ、各業務分担を行い、定期的に話し合いの場を持ち、業務実績の確認を行っている。担当に関する責任は管理者が全て持ち、担当者が自由によりよい発想をもって業務に就けるよう心掛けている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の入居者の訴えは当事者が居室担当またはホーム長へ申し送り、必要があれば管理者が対応を行っている。管理者はできる限り、ご家族と一緒に(契約時に協力依頼済み)入居者の困っていることを悩んで頂き、解決している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が悩んでいることは面会時のお声掛け、また電話やメールでの連絡を通して、積極的に伺っている。あまり面会に来られないご家族の方にも、介護計画作成時期(最低3ヶ月に1回)には、電話やメール、必要であれば来訪して頂き、一緒に介護計画の作成を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訴えがあったときは全てその日のうちに対応している。居室担当やホーム長、管理者が不在の時は、緊急の必要性をご本人、ご家族に確認し、管理者まで連絡が行くようなシステムを取っている。(管理者の携帯電話は24時間、繋がるようにしている 070-5573-6536)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始時は、外泊を基本とし、入居者の方の状態を観ながら徐々にグループホームの生活に慣れて頂いている。外泊、外出はご家族の方にもできる限りお願いをし、グループホームだけの生活にならないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方の生活上必要な援助は行うが、一緒に生活しながら様々なことを入居者の方から学んでいる。料理や洗濯をはじめ、礼儀、昔の日本のこと、時には職員の相談事を聞いてもらい、アドバイスを頂いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ち(見たかったけど、看れなくグループホームに入所させてしまった)をよく理解し(会議、研修の場で管理者が何度も職員に伝えている)、入居者の方の介護を一緒になって考えている。ご家族の前で「ばあちゃん、じいちゃん、おとうさん、おかあさん等」呼んでいる。ご家族にもそのことをご了解頂いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族では無理であった家族旅行に居室担当の職員が一緒に出掛け、入居者の方の予てからの希望であった一泊温泉旅行を行った。それ以外にも、故郷への一泊旅行や温泉旅行はもちろん、ターミナル期の入居者を職員3人で塩原温泉一泊旅行へお連れしたこともある。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	退居された入居者のご家族とも今現在、メールでのやり取りを行っている。また、亡くなられた方のご家族からは、法事の供養が終わるたびにご連絡を頂いたり、法事の出席も行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	できる限り、リビングに出てきて頂き、他の入居者の方との交流の機会を設けている。毎日の買い物をはじめ、ドライブや外食、喫茶店へのお茶などの機会を積極的に設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退居され、特養に行かれた方の介護相談や、亡くなられた方の家族の介護相談も適宜、行っている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご本人の希望、生活スタイルを一番に考え、介護計画を立てている。ご本人に判断が難しい場合は、ご家族に現状を伝え、一緒になって介護計画を立てている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>契約時に発症経過シートをご家族にお渡しし、記入をお願いし、生活歴の把握に努めている。不明な点はその都度、ご家族に連絡を取り、ご本人らしさが失われないように配慮している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一日の生活の過ごし方で判断するより、一週間くらいのスパンで入居者を観ていこうと考えている。例えば、夜遅くまで起きられようが、朝食を拒否されようが、その時のご本人の気持ち、メンタル面の考察を一番に行い、入居者を把握するようにしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一般的な高齢者の過ごし方を大枠とし、そこからは個別ケアに徹している。ご本人、ご家族とよく話し合い、介護計画を作成している。例えば、水分摂取の苦手な方に対し、個人購入でジュースをゼリーにし、食べて頂き、水分を補充して頂いている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に3ヶ月ごとに介護計画のモニタリングを行っている。入居者の状態に合わせて、1ヶ月でモニタリングを行う場合もある。3ヶ月以上モニタリングを行わないことはない。モニタリングの結果から再度、アセスメントを行い、目標の設定をご家族と考えている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に対する記録をCPと題し、詳細に記録を行っている。後で振り返るときに、分かりやすく整理できるような工夫からこのような記録の取り方を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じさいたま市の浦和への入居希望があった場合や浦和希望の入居者の入居、その他、ご本人やご家族の希望に合った支援ができるよう、その都度相談に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に2回、消防署の消防訓練やボランティアさんの受け入れは積極的に行っている。あすか保育園の交流も盛んで、運動会に招待されたり、敬老のお祝いに来られたりと非常に良好な関係が築けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近くの特養のケアマネジャーと定期的に情報の共有をされており、管理者で判断しにくい問題などは相談を行っている。また、グループホームへの入居の依頼等、相互関係を築いている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの社会福祉士の方との面識があり、必要に応じて相談を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の変更を入居者の方の希望をお聞きし、変更時は変更届を頂いている。月に2回の定期往診をはじめ、必要時は優先的に診察をして頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホーム近くの精神科や入院設備のある精神科との連携を取っている。かかりつけ医も認知症に理解を示して頂ける先生で、認知症の重い方にも柔軟な対応をして下さっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	以前、利用していた訪問看護ステーションの管理者の看護師の方と定期的に情報の交換を行っている。必要時は訪問看護サービスの利用も行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院は原則、治療期間のみと認識しており、担当医にはグループホームで生活できる状態であるならば、ご家族と相談し、積極的に退院の許可を求めている。先日も、予定より早めの退院許可を頂き、通院での治療となった例がある。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護計画更新時には必ず、ご家族の方と今後の方向性を相談している。重度になりそうな場合、福祉用具の検討や新しい介護方法などご家族との相談を密に行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームの中では「やってあげたいことと、できること、できないこと」に分類し、毎日の介護に当たっている。終末期はご家族、かかりつけ医、ホーム職員で何回も話し合いを行い、対応してきた。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他のふれあい多居夢に入居待ちの方もいらっしゃったが、生活環境の変化が認知症の方には非常に大きな影響があることをご家族に相談のうえ、慎重に話し合いを行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ふれあい多居夢大宮のケアの基本は後ろにご家族がいてもできるケアが基本となっている。記録もご本人以外は全てインシヤルや虫食いにして記録し、個人情報を取り扱っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ふれあい多居夢大宮の基本は「できることは自分で、できないことは一緒に」をモットーにケアを行っている。ご本人がストレスにならないような時間のかけ方はできる限り見守り、ストレスにならないようにさりげなく介助を行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の日課はあくまでも目安で、入居者の希望に沿って散歩や買い物、時には外食にもなったりしている。玄関にも鍵をかけておらず、間接的な身体拘束も行っていない。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月、出張美容で理容師の方が理・美容のサービスを行っている。個人の行きつけの店は基本的にはご家族にお願いをし、利用して頂いている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事を作る前の買い物から入居者の方と全て共同作業で行っている。職員と一緒に下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、食べる、下膳、片付けを毎日行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>毎日、晩酌しておられる方も、毎日喫煙されている方もおられる。好みのものを禁止することは思い当たらないし、禁止にするメリットが理解できない。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄介助をされている方は排泄チェック表にて、誰が見てもすぐに分かるような一覧になっている。記入も記号を使用し、書きやすく工夫をしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>原則は入浴を希望され、バイタルに問題がないときは優先して入浴をして頂いている。入浴が嫌いな方でも1週間に最低、2回は入って頂くように目安は立てている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>不眠傾向の方には夜間、足浴、マッサージ、足を高く挙げる等を行い、入眠しやすい対応を心掛けている。昼寝など、必要に応じて適宜、短時間の休息を促している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>契約時に発症経過シートをご家族にお渡しし、生活歴の把握を行っている。そして、それをヒントに毎日の介護を行っている。趣味活動やホーム行事以外の活動もご家族と相談しながら行っている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理ができる方はご家族と相談をしながらお金を所持して頂いている。買い物時や通院時はご本人が支払うよう心掛けている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>基本的には散歩や買い物などで1日1回は外に出るように心掛けている。外にお連れするのが難しい方でも、外気浴は行うようにしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>入居者の方の希望で動物園に行ったこともあった。人員配置上、できる範囲の外出は行すが、個別の希望はご家族にお願いをし、対応している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要時、事務所のものをお貸ししている。携帯電話を持ち込まれている方もいらっしゃる、定期的にご家族に手紙を書いていらっしゃる方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間などは設けておらず、玄関の鍵もかけていない。いつでも気軽に行き来できるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止会議を開催しており、担当者は職員に議事録の公開、伝達を行っている。身体拘束は入職時や新人研修にて学びの場を与えている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開所以来、居室、玄関に鍵をかけていることはない。夜間の防犯上のみである。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の所在確認は随時、夜間も最低3回以上は巡回を行い、入居者の方の安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品庫以外は施錠していない。洗剤や漂白剤、その他危険と思われるものは、入居者の方の目の届きにくいところで管理を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	新人研修で学びの場を与えている。事故防止に対し、ヒヤリ・ハットを積極的に書いてもらい、事故防止に努めている。事故が起きてしまったときは、事故報告書をもとに、全職員で再発防止策を頭に入れ、勤務に当たっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	新人研修で学びの場を与えている。年に2回の消防訓練を通し、119番の通報訓練や水消火器の訓練も行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防訓練で、避難経路や災害時の対応を訓練している。地域の方とは隣近所は毎日の挨拶から、自治会とは自治会長さんを通し、色々と協力をして頂いている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の方に包丁を持って頂いたり、杖歩行時の転倒のリスクなど、入居者の方の処遇に関してはその都度、確認を行い、対応している。ホーム側からは「できる限りできることは行う」の考えで処遇を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日中のちょっとした体調の変化は職員間で情報を共有し、かかりつけ医、ご家族への報告を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今、飲んでいる薬ファイルを使用し、与薬時は毎回確認を行っている。居宅療養管理指導で薬剤師の指導も受けており、必要時は電話にて対応して下さる。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の運動を基本とし、野菜ジュースの提供やオリゴ糖などを使用し、自然排便を心掛けている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛け実施を積極的に行っている。必要な方はうがい薬での口腔洗浄も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	グループの管理栄養士さんに献立のチェックを行って頂き、コメントを頂いている。水分摂取が難しい方には、ゼリーなどで対応し、必要量を確保している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種の励行を行っている。外出後の手洗い、うがいは入居者の方、職員を問わず、行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物は毎日が基本とし、賞味期限、消費期限が切れたものは一切使用していない。夕食後はまな板を含め、毎日ハイター浸けを行い、キッチンの熱湯消毒、布巾の煮沸消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	あえて、グループホームの看板、表札は立てておらず、地域に溶け込めるよう配慮している。ホーム周辺には花を植え、一般家庭と同じように親しみやすく配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員には基本音量を下げるように指導を行っている。食堂には花や適度な明るさ、トイレには無駄な明るさや異臭がないよう配慮している。生活感や季節感が感じられるような工夫もしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファを置き、ちょっと腰をかけられるような配慮をしている。食堂以外にも和室を用意しており、居室以外のパブリックなスペースも多く用意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面台、エアコン、クローゼット以外は全て持込をお願いしている。毎日の生活で必ず手に触れていたものを持込むことで少しでもグループホームの生活に早く慣れて頂き、今までの生活をして頂くことを基本と考えている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬場でも換気を行い、外の空気を取入れを行っている。においは芳香剤の使用よりも、においのもとになっているものの排除を基本としている。冬季のトイレには暖房が設置されており、温度差が出ないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行空間には全て手摺りが設置されており、できる限り自分の足で歩くことができるような環境を整えている。居室空間は安全かつ自力で生活しやすいことを基本とし、有資格者に相談も行いながら、住環境を整えている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗をした場合、原因の追究を行い、次に失敗をしないような環境を整えている。ご本人がストレスにならないかつ、失敗しないような具体策のバランスを考え、対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑や花壇があり、入居者の方が自由に行けるようになっている。花の水遣りや畑の収穫なども入居者の方が行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ふれあい多居夢大宮は開所以来、その人らしさを大切にケアをしてきました。いろんなことを経験され、様々な生活をされてきた方たちが、少数数とはいえ、一緒に共同生活を行うことは非常にストレスになると思います。だからこそ、そのストレスを少しでも感じて頂かないようなやわらかいケア、その人らしさを尊重した個別ケアが大切であると思います。しかし、そのようなケアは職員だけではなかなか行えません。やはり、入居者の方の家族をはじめ、親族、友人、大切な人などいろんな方々の協力があれば、少しはその人らしさを維持するケアを行うことができると思います。日々、職員も頑張っているケアを行っています。たまには泣きたくなくなるくらい辛いこともあります。だけど、その涙を拭いてくれる入居者の方もいます。やはり人は皆、持ちつ、持たれつ、お互い様だと考えます。そんな当たり前のことを思いながら、その人らしさを尊重し、自分らしさを持ちながら、みんなで生活しています。